

私の誕生日。三時半退けて入浴し晴れた夕暮。茶のスカートにあのドラ上衣で出かける。戸を開けてすぐ見合す目と目。
小母さんは案のじょうころがってゐた。疲れたのだろう。
いんぎんに挨拶する。小父さんも別段何とも云わず淡々たるもの。弟妹達にも。思えば私は心臓が強いんだな。歸りは星がきれいだった。
と思つたけど二度ヒヤツとした。
誕生日のプレゼント何かしら。いらぬいらぬだけどくれないと何だかつまぬい。

6月2日 土曜日

岩渕さん当直。4時頃ひけて歸ると伊藤さんも混つて四五人で縫い上つた単衣を着たり脱いだりし合つてゐる。
私も気の利いた浴衣が一枚ほしい。
夜でんぶ買いに行く。
伊藤さんはうどんをへんな煮方した。私は寝て了う。

6月3日 日曜日

朝調理場でお弁当作つてみると相田さんが手傳つてくれた。経費節約で、のり巻と玉子おむすびだけ。お晝頃出る迄、みなに冷かされ、クサイぞクサイぞと云われて困つた。
岩渕さんも伊藤さんももう居なかつた。岡野さんが虫干ししてた。平井さんの干した昆布、北海道の匂いがする。私も大たんになったものだブラウスにタイトスカートで外出するなんて。勿論めがねも忘れずに。此の眼鏡一つでどんなに楽しく過せたいでしょう。
眞晝の東京湾も夜の銀座も・・・・・・・・・・
螢、つゆの命、

深夜一週間

6月4日 月曜日

青木さんと一緒に歸り十室で后四時迄寝る。
山口おミチのバカ、いけない今日は四日だっけ。
すっかり三日だとばかり思つて、油断して不精してしまつた。沼館さんが目がねを取りにわざわざ敬愛寮迄来たので本当に済みませんでした。
白衣も横山さんにたのんだのに出してないし、實際人だのみとは当にならないものだと思つた。
今日から一週間は毎日一番乗りに入浴出来る。
后十時門を出る。沼館さんに話聞く、すぢ書読んで眠くなかつた。

内山さん休み、二人でよく寝る。
 一番先にお花に行く、湯上りに花を活けて、さわやか。
 南天、鋸草——女郎花に似てゐる。ホテチャ(金魚草の如き赤い花)のち、レスタミンにて寝る。十一時二〇分出勤。
 后藤さんは心の美しい人だ。
 夜勤すると夜食がほしくなる。

長崎の鐘

6月6日 水曜日

后六時より映画があるので急いで入浴し、内山さん砂賀さんと病院へ来る。后藤さんと替り、二時間勤務、后レスタミンを打ったがどうした事か、さっぱりきかず当直室で沼館さんの漬物をする。
 胡瓜の涼しい匂いをかぎ、山口さんとけんくわしたり、スタイル読んだりして十時頃寝つく。一時出勤、后藤さん、煮といと云ったガーゼすっかり洗って、くれた。食札を作る。
 三病え行くとナベさん三つの椅子で半ノビ。眠くない。
 今日晝間から寝られなかった。明るい窓際に寝るせいだろうか。陽に当って掛布団がふくらんで了った
 母はどうしただろう。夜勤では行かれず気の利かぬ兄と嫁が歯がゆい。ウラメシイ

6月7日 木曜日

そろそろ昨日あたりから一日寝てるのも飽きて来た。今日は寝られるようにレスタミンしていつもの自分の寢床の場所に布団敷く。昨日から前の流しの窓をガタガタ二三人の男が修繕してるのであまり安らかな気持ちじゃない。
 丁度よく、飲みも食いもしないのでお晝頃迄はトイレトに行かなくてもすむが、此の寢巻姿ではうっかり廊下も歩けない。お鍋で御飯を煮る。沼館さんの演劇会を又こく明に読む。電話して平原さん六時頃遊びにくる。庄ちゃんも。小雨も止み、玄関迄二人を送って。明日にそなえてやったクリップ、白布の頭がおかしくうつつただろう。岩淵さん無口、后十時半門を出る。引きつぎ一時になって了った。青木さんが話し込んでたので、又二時迄今度は山田のおバアちゃんも来て豆や玉子をゆでてくれるやら有難迷惑。
 青木さんはこの頃大分よくなった。話を聞くとよくわかる。
 まるで小説になる話ばかり、しっかり者で早熟の彼女。

クリーム色のブラウスに紺のスカートで眼鏡を持って
ハンドバックにはパン券か何か入っていきそと外出。

勿論給料は早いと貰って了った。松坂屋へ寄ってクリーム買う。

源平布引滝の海老蔵、相変らず盛綱陣屋の如く良いが丑之助の子に對する情の表現がとても優しく人の良さが出る。福助の此の頃の成長は素晴らしい。

男女蔵、彦三郎、共に此の劇団になくてならぬ人。松緑云うに及ばずだが、一本刀の鮮かな変り様、梅幸のお蔭、亀三郎の子、海老蔵の子を負うて行く父、皆印象に残るものばかり、時雨西行の松緑、羽左衛門、橋蔵、菊蔵、共に品よくきれいな。歸りは良い月夜でした。上中里の坂を観てきたばかりの芝居を一つ一つ思い出し乍らゆっくり上る。時、九時半

去年の今日は内館さんと銀座を歩いてた日也。

朝退けて午迄眠る。それより後紹の白のブラウスで内山さん相田さんと一緒に外出。病院へ寄って鋸草(黄色)とホテチヤ(金魚草)を包んで持つてく。

病院の前に勢揃いした小学校生徒手に手に半ばしをれか、った花束を持って。キリスト教らしい。患者にお見舞に來たのだろう。上野松坂屋一階で二人と別れる。花林糖百匁70円の買つて歸宅。暫くすると父と保ちゃんが湯から歸つて來た。又腰でも叩く。ラヂオ面白い。泊って行く。

兄が姉と來た。バナナを佛様に上げて。あまりトロリとするバナナぢやない。一本貰つてって広セさんか誰かに上げよう。

6月10日 日曜日 時の記念日 注射の日

三時半退け、岩淵さんオベでおそくなる。

裁縫から歸つた伊藤さんと飛鳥山え彼女のだいたい色の生地を買いに行く。まづいおそばを食べる。

珍しく外出して買物―ボタン園、エバクレーム(*脱毛クリーム)、ぢやが芋一山

6/11(月)

克蘭ケの青木氏こうふんし、あの電気の紐の事や、氷枕の事や朝ベットにゆわえつけて貰うことや雪下先生の事などで大分怒ってるらしい。廊下に出て他の患者と大声に看護婦の悪口を云う。

何を云っても聞えない振して怒らないでいる私達を何と思ってるだろう。凶々しいと思ってるかしら。併し此方もいくら神経科の患者とはいえあまりいゝ気持はしない。

此の頃つくづく一病がいやになった。つきつめてくと青木氏の事でらしい。心ひそかに悩む。

6月12日 火曜日

菖蒲を生けたがバケツに入れ明日家え持つて行こう

今日は嬉しい代休で欠食しなかったので朝調理え行き焼魚でお弁当詰めて貰う。家に行き、母と手傳い、掃除、勝手仕事したりする。母のかっぱう着なおして作りかける。菖蒲は大が短くなって姿が悪くなった。矢張り何でも所を得る事が大切だ。母と色々話してすぐ明日にでも王子え行ってもよいと云う。でわと、勤務の都合もあるので土曜日に行く事にする。天気予報では明日あたりからくずれるそうだ。夕食の美味しいお菜に大根おろしがバカに美味しい。大根を貰って行こう。

雨、母のかうもり借りて朝歸り。

三時半退け、一番先に退けて来た岩淵さんなつかしそうに顔見合はす。此の間伊藤さんと買って来たぢやが芋に又一貫目岩淵さんに買って来て貰いおいしい粉ふき芋作って三人で食べた。

6/14(木)

勤務してても気が気ぢゃない。

九時から一時迄なんだけど手不足だろうと気を利かして7時から勤務。ビショビショと雨が降って、これでは家でも行かないだろう。電話かけるわと云って来た手前もあるので閑をみてかけようとするが通じない。まよ、これでは仕様がな、家でもあきらめてるだろう。午で退けて此の間の大根とぢやが芋を實にして内山さんにお味噌貰いおみおつけ作る。麦飯にて食す。ことの外美味なり。

大根の千六本、クタクタにならぬがよろしい。
岩淵さん姿見えなかった。

6月16日 土曜日

日勤、后藤さんと。

三時半退けて仮服に着かえ、昨日小林さんのママにいただいたダリア三輪持って家へ行く。父が一人米のアラを拾ってる。

あゝ悪い事してしまった。昨日は電話かゝるかと思つて父と母と夕方迄待つて居たとか。今日は天気が良いので行くかと思つたんだって。今日は日勤だと云つたのに。見解の相違かな。母は后二時頃より海老原さんと亀戸え買物に行つておそく歸ってくる。るすの間、私はレター書き、父は豆腐でもと云つてたけと精進揚買って来て二人で淋しい夕飯をすます。げに女親のありがたさよ。

母歸り次第を聞いて父怒る。まづいなと思つたとたん、母も強情である。海老原さんもていやはや飛んだ事になった。でも暫くして私に話を聞いてくれた。水曜日に行く事にする。人生月夜ばかりじゃないね。

6月17日 日曜日

ボタン園はとても快し。
小池さん休みでヘンな張り切り方。吉田さんもヘンな人ね、まあ年が若いんだから仕方ない。
今日は青木氏もそんなにこうふんしなくなったので先づ一寸安心。

19日(火)

晝食のうどん食べかけて院長室に集まり号俵の上ったカミをいただく。早く差額が出ればよい。(*号俵=国家公務員の職階によって決められた俵給)
白百合に桔梗に撫子、とても美しい落着いた花。
直立系から、スマートに先生になおしていたゞく。
今日は一斉に飾らず部屋に持って歸る。
いゝ匂い。電話かける。母の声。梅干買う。

6月20日 水曜日

代休。七時に起き、お弁当作る。海苔のおむすびでいゝわ。
張り切って、メカしてまがいデシンの長袖ブラウスに紺のスカート、サンダル、あけびの少し古びたかご。
錦糸町九時十分着。改札口でノコノコ来た父と母を見つけニヤニヤする。母も今日は若返った。いゝ下駄の鼻緒の色、松坂屋行は止めて王子迄行く。始めて乗るバス、まごついた。案内係がこれぢゃ仕方がない。
小父さんも小母さんも上機げんなり。運よく偶然に二人も休み。大へんもてなされ飲めない父は苦と同じ、でとうとう寝て了った。丁度暑くなって来た頃おいとまする。歸りはバスで送って来て貰い、思いがけず嬉しかった。父と母には一寸すまないけれど。控え目に控え目に。去年の夏行ったきりの浅草で我あやまてり。白痴(*ドストエフスキー 黒澤明監督映画)、遊侠の群れ(*長谷川一夫主演映画)なんかにしてるって。それでもまあまあ、こんな親子三人で外出するなんて恐らく生まれて始めてだろう。エ子ちゃん(*亡き妹)が居ないんだから。歸りは兄貴の家へ寄る。かわいらしい嫁さん
私はあるまりがつついてたかしら。どうしよう。
十時帰宅、母は又早速出て行った。私は今日は何だか色んなものをたんと食べて腹が痛い。下痢かな。
遂に病院に歸れず、電話かけても誰も出ない。きっと大橋さんの当直だろう。母に手傳う。女の子一人居ると云々の母の言葉、胸に苦しく聞いた。

歸ってみれば、休みに出したとか出さないとか。
吉田さんの言葉つきはまるで常識外れ、頭が良くても勝気な彼女はまだ若い。小池さんよ
何をツツけんどんにするのですか。又私の話をよく聞かないんでしょう。

6時迄勤務で、午后耳鼻科のオペにつくに気持すこぶる悪し、堤さんと代る。其の時の小
池さんの顔。酒井婦長さんには何も云うまい。面倒臭いもの、一々。
おそく歸り、鈴木さんに花を持ってく。

ひとり来て砂に涙のしむ音を濱ひるがほにもきかれけり(大木惇夫)

→ 思いがけずいゝ唄にめぐり合った

朝五病の水野さんえ花持って見舞に行く。もう直退院なんだけど
一日欠食。

貞明皇后の大そう儀 ア、哀しいかな。
半日でしまい。前、十時二十分の黙とうの時間。

三人で忙しい最中であつたので后で思い出し残念。

今日は退けてからも身をつゝしみて行いをすます。連日の眠不足は私を夕方迄床に就かし
て了つた。さっぱり入浴して過日の貞明皇后様のおしゃんの載ってる新聞と、夕刊を買
い、亡き皇后様をしのびに行く。夕暮近くもの悲しい雲が堤、波の上に拡がり天地を閉ざ
しやがて沛然たる雨となる。

暁の脱走、橋の下の憩い。

6月22日 金曜日 晴

今日は昨日の分の食事。晝退けてあついで出来たての御飯夜のお弁当にして貰い部屋に帰る。
十五枚洗濯、風呂場で水でやる。

終つて竿に干す頃、雨が降つて来た。

クータビレタ。岩渕さん来月一バンメの試験なので一生懸命だ。と思つたらアンドレヂー
ドの「狭き門」を読んでいる。彼女仲々感心だわ。

夕方食事に行く岩渕さんと途中迄外出。酢一合、ボタン園、ナフタリン求む。
今夜は伊藤さん当直で居ない。

6月23日 土曜日 晴后小雨

寝坊せずお弁当作りで普通に起きる。岩渕さんと浅野さんと三人で掃除。油揚げは岩渕さん中々出来ないとか、気が気ぢやない。ガスだとうまく行かないのでヒーターでやったら御飯わりによく出来た。伊藤さんは退けて来てもたん気て、うどんなど煮て食べてる。

今日は伊藤さんが利かれないと思った。おミチっちゃん来たけりゃいゝけど、来ても午后ならいゝんだけど岩渕さんが支度に忙しい。手順よくそれでも時間一杯、一っぱいに間に合って三人で出掛ける。

場内は一杯なり。なよたけ抄、源氏物語より断然いゝ、いつも菊五郎劇団は若さがみなぎってゐる。なよたけと、磨呂の美しさ。松緑相変らず達者だ、ユかいだね。

幕間は忙しく一階の電話と三階を何回往復したか私の連絡も悪かったんだが矢張り運が悪いんだわ。

涌井さん外出で、残念だけどあきらめぬ。伊藤さんに固いけどうまいアイスクリーム御馳走になる。

彼女しかしよくケラケラ笑う。まさになよたけ抄の中のけらをだ。岩渕さんは一寸の事でわニヤリともしないで見てゐる。一緒にくると妙に気になるもんだ。

三時半終り、帰りは銀ブラ。

高島屋——白木屋——絆傳——西川——絆傳——をめぐり伊藤さんの品選びもじれったくなつて了う。

お先さよならして家え、40吋巾のキャラコは(2.5)母にくれて了う。父が何か云う。タコとキウリとトウフで涼味万点の夕食。少し父の腰叩き、ラヂオ寄席を聞いてから今夜から夜勤なので泊らずに帰る。

準夜は堤さん、日比野さん達と比べると后藤さんは云うだけあってよくやってくれるし気持もきれいだ。思いがけず丁度眠気のさす頃うどんを御馳走になりとてもおいしかった。それにしても近頃藪崎さんのすっかりして来たこと。

母と逢引き、上野驛前、十時。地下鉄映で、お遊さまをみる。存外よかった。田中絹代ファンか、万年娘もメッキリふけた。

水谷八重子と比較すると面白い。

津島恵子もそうだけど乙羽信子も純情可れんで生きる。堀がまるで歌舞伎役者みたい。

ラストが何とも云えず美しい。余いを残す。

午后雨になる。あの時はあっさり広小路で別れたけど母は何してるだろう。

十時半門を出る。今夜の雨はとてやわらかく、まるで緑色の芝のもうせんの中を歩いてるようで傘も少しもぬれないと思われる。

藪崎さんの新ぢやがのふかしたのはうまいなあ。

朝退けて家に電話かける。母の声にて直ぐいらっしやい。眠いのがまんして昨夕の生花を
 ごっそり持って出掛ける。
 松坂屋のチケットに寄るが、なよたけ抄の筋書賣り切れ、がっかりする。十時半、母猫と居
 る。直ぐ三疊でころがって寝入った。母は兄の車で姉のところへ。
 留守番が寝て居たのでわダメか。知らぬ間に母歸りておどろく。陽当らず風涼しく五時半
 父の歸る迄又眠る。母の買って来た精進揚鮮やかな黄金色也、茄子、胡瓜のお新香で夕
 飯。夏の夕はいとおかし。
 九時頃、前、米永さんのお通夜に行く母と家を出る。

6月28日 木曜日

わりと早く退けられた。朝田中屋に寄る。今日は約束の日なれば夕方迄にクリップをかけ
 て髪をきちんとして居たきになぜかおっくうで眠くて仕方なく、曇空に窓開けて何時もの
 如く蒲団敷けば、顔や手にむらがるはえも追えばこそ間もなくぐうぐう寝入った。
 夢がうつゝに部屋に人の入って来たのを憶えてゐるのみ晝頃にも目もさめず五時頃起き出
 れば外はいつの間にかしとしとの雨なり。行こうか行くまいか、雨の気配に目をはなさず
 居たが此の前の事を考え合せましよ。今日は止めるだろうとてのんびり風呂に浸り、そう
 めんの煮込をつくり、岩淵さんと食う。
 今夜は青木氏一晚中寝ず。

6月29日 金曜日

歌舞伎サークルより。はぐらかされたような気なり。
 —
 今日手紙の来る頃伊藤さんに頼んだら彼女案の定忘れて岩淵さん持って来てくれる。
 入浴最中平原さん面会にて汗ダラダラのえりくびに滴の落ちる洗い髪で夢中で話す。
 珍しく酒井さん伊藤さんとやって来て二人で外出。
 病院はダンスパーティーで、山口さんと田宮さん出掛けるらしい。ミチ（*山口さん）、貧乏
 たらしいぢやが芋なら食べなきやいゝに。伊藤さんのうまそうな混御飯を半分がとこ平げ
 てかわりに甘く煮たおぢやを入れておく。岩淵さんが此の間のキャラコで何か作り出し
 た。蒲団を其の儘に十時半門を出る。
 今夜も青木さんつ夜、又なやまされた。
 当麻さんの当直なり。

眠いが腹が空いて炊こうとしたら相田さんの御飯御馳走になる。山田のバアちゃんの玉子と干だらで、午后になれば皆歸って来てそれぞれ外出。

水泳競技大会でくわん声が物すごい。出て見に行くのも面倒臭く相田さん内山さんと部屋に居たが、じっと蒲団をかけて寝てると汗がにじんで来そう、はえがうるさく、よく眠れない。何度も寝返りうつ。

起き出して風呂の沸き出した頃入浴し、内山さんに背中洗って貰う。それでもまだ岩渕氏伊藤氏歸らずどうしたかとゆっくり出掛けようとしたら歸って来た。岩渕さん可哀そうに、妹さんの湿性肋膜炎。

途中考え考えフラフラッと、とうとう来て了った家。

ダリヤがとても素晴らしい。まだ皆の歸らぬうちいとま乞して散歩がてら送っていた。下が掘だったら宮城前と同じなだけ。平気によそおって居ても一寸のはずみに胸がドキキする。

十時半門出。手紙来てないので心配。

最後の一日眠くて眠くて青木氏の話もボヤッと聞き、とうとう彼女三時前引揚げる。居眠りが出た。